



40周年記念 希望の家祭特集号



みなさん

ありがとうございます

希望の家祭実行委員長 山下 薫

共に生き、共に育つ希望の家で今回、実行委員長をさせていただき、ありがとうございます。希望の家が四〇周年を迎え、わくわく・いきいき・びつくりの1日にしよう！と「希望の家祭」を創ってきました。

『整いました しあわせな出会い』を合言葉に、感謝にあふれた希望の家四〇歳の誕生日パーティができて嬉しさいっぱいです。大きなデコレーション・ケーキを山崎勲元理事長ご夫妻にカットしていただきました。この四〇周年パーティでたくさんさんの初の試みをチャレンジしました。ステージでは、パレード！パレードに合わせた病棟の飾りつけ、喫茶ではパーベキュー、記念Tシャツ、サプライズの企画をどの係も準備しました。

先ずは、ステージのパレードが好評でした。入所者のにっこりした顔や、楽器を持ってイキイキ演奏する姿、音楽に合わせて踊る姿嬉しそうに一生懸命でとてもイキイキしていました。予想以上にみんな喜んでくれて私まで嬉しくなりました。入所者も保護者も職員も、皆一緒になつて喜びました。いろんなコスチュームを着て、華やかにパレードしたのが好評でした。

そして、病棟の飾りつけがとても好評でした。ここでは各病棟が個性豊かに飾り付けに取り組みました。病棟スタッフが協力して取り組んだ結果です。来ていただいた保護者の方にもとても喜んでいただきました。



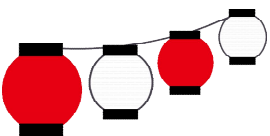
今年で土佐希望の家は創立40周年を迎えました。毎年10月に開催している「希望の家祭」も今年は特に盛大に行いました。みなさん楽しく過ごされて、今年もいろいろな人との「出会い」がありました。

喫茶でもお肉の固まりを食べられない入所者のために、喫茶の係りと厨房とが頭を寄せ集めて考えました。誤嚥事故が起らないように、でもパーベキューの形を残したい。そんな思いから喫茶コーナーで奮闘しました。そのおかげで美味しそうな匂いの立ち込める喫茶ができました。

そんな希望の家全体を飾ったのが、保護者や職員が着ていた記念Tシャツでした。色とりどりのシャツは会場を華やかにして、会場が嬉しさいっぱいになりました。西崎さんの絵が採用され、好評でした。西崎さん、ありがとうございます！それからなんとTシャツは合計532枚売れました。Tシャツを買って、いっしょに着てくれてありがとうございます。会場がカラフルなシャツで彩られ、一層華やかになりました。

こんなふうに『整いました しあわせな出会い』の希望の家祭が開催できました。これも地元の方をはじめ、保護者の方々や入所者のみなさん、そして職員の協力でした。本当にありがとうございます。希望の家祭の数日前に、入所者の横山さんが高知市内で簡易電動車いすで日本一周をしている武藤さんに出会い、希望の家祭に招待しました。そこからもしあわせな出会いの希望の家祭が始まっていたんですね。

たくさんの方々のご協力で盛大に四〇周年パーティが出来て、私は感謝でいっぱいです。本当にありがとうございます。



たくさんのお祝いがありました!



施設内には各病棟、学校からもたくさんの作品を展示しました。みなさん見ていただけましたか？



今回のヒット商品、ひまわりの西崎さんデザインの40周年記念カラフルTシャツ。



先日、雨の日、自宅で読書をしておりました。「高知県の歴史散歩」(山川出版社)という本です。お読みになった方もおられるかと。その中に年越山のことが出ておりました。どこかで聞いたような名前だなあ。ああ、そうそう、確かあの四〇周年記念誌に、「年越山」と出てたなあと読み進めました。そこに載っていたのは、自分が知らないこの地の歴史でした。いや、高知では有名な話だから知っているよという方も多いかもしれませぬ。

創立四〇周年を迎え、「土佐希望の家」では記念誌が発行され、創立からの当施設の歩みが語られております。その中に、現在の当施設、「土佐希望の家」を、この「年越山」に設立することになったと記載されております。

現在の当施設の住所は、南国市小籠一〇七番地。すぐ南側は、雑木林の低い山となっており、この山の名前が「年越山」。

土佐希望の家周辺の歴史(1)

施設長 長博雪



時は平安時代の終わりごろ。源平が台頭していた時代。そうした中、平治の乱(一一五九年)に破れた源氏の一族は、あちこちに流されました。源頼朝は伊豆へ、同母弟の源希義は土佐介良莊(高知市介良)へ配流となったということです。(異母弟の源義経は鞍馬山に預けられた) こののち約二〇年が経過、希義も成人となりました。このあたり一帯は平家に関連する豪族の支配地域。もちろん、希義も平家に関連の豪族に預けられておりました。

治承四年(一一八〇年)、「源氏挙兵 頼朝立つ」の知らせが来たのでしよう。希義も夜須七郎行家を頼り、夜須荘(現 香南市夜須町)を指しました。しかし、武運つたなく、平家方の平田俊遠・蓮池権頭家綱に捕らえられ、ここ年越山で最期をとげたと伝えます。源希義には息子が居たそうです。その名を、「希望」とのこと。その後、彼は介良氏の祖となり、四国吉良氏に至るといいます。

この話は、鎌倉幕府の公式記録「吾妻鏡」(寿永元年九月二十五日条)にも載っています。自分も高知市内金高堂書店で、「吾妻鏡」の現代語訳本でみました。今から八三〇年余り昔のことだそうです。



「年越山」 潮見台団地より望む